

# 読書活動推進NEWS

こちらのQRコードから、閲覧・ダウンロードができます→



## 語り部から聞く震災「ふるさとの今と未来」～田島二小・檜原小～

田島第二小学校、檜原小学校において行われた、語り部から聞く震災「ふるさとの今と未来」の様子取材しました。社会教育課で実施しているこの事業は、語り部などから東日本大震災についての話を聞き、「他者やふるさと福島への思いをもつ復興を支える人材」を育成することを目的に開催されているものです。

講師は、NPO 法人富岡町3.11を語る会の宗像涼さんです。宗像さんは小学校6年生の時に東日本大震災を経験されました。子供目線で語られた宗像さんの経験談に、両校の子供たちは真剣に耳を傾けていました。



**【田島第二小学校】** 事業を参観日に設定し、子供たちと一緒に保護者の方にも聞いていただきました。

地震の影響でまちの中がボロボロになってしまったということが初めて分かりました。

放射線の影響で長い間、家や学校に入れなくなったところがビックリしました。

(田島二小児童)



中2の息子が生後5か月の時に震災を経験しました。南会津にもミルクやガソリンなど物資が届かなくて、電車に乗って探しに出たことを思い出しました。

ふるさどがふるさどではなくなったことはつらいだろうと思い、胸が痛くなりました。(保護者)

**【檜原小学校】** 今回の語り部事業を基に、ペアで作る五・七・五「十七字のふれあい」において、ふくしまへの想い・復興について取り上げる「ふるさと部門」を中心に取り組んでいただけるとのことでした。

震災は人の命を奪ってしまう恐ろしいものだということがわかりました。この出来事を絶対に忘れてはいけないと思います。

私も将来、子供たちに伝えていきたいと思いました。

(檜原小児童)



震災を経験していない子供たちですが、子供たちと同年代の時に被災された方の話は、子供たちにとっても響いたと思います。

宗像さんのリアルな話を次の世代にも伝えてもらいたいと思います。(教員)



<語り部の宗像さん>

「避難でつらかったことはありません。ビッグパレットに避難したときは、みんなと仲良くしていたから、むしろ楽しかったのを覚えています。」  
「震災で壊れたのは、モノではなく人と人とのつながりです。大人になった今、自分の住んでいた町を別世界に感じます。13年経った今でも、復興しているようでしていません。」

宗像さんの2つの言葉が印象的でした。子供と大人の感じ方の違い、大人になった今感じている復興への思いがよく表れていると感じます。復興は道半ば、当時を語り継いでいくことの大切さを改めて感じました。